

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和6年 2月 20日

事業所名 はなまる本店 (回答率8/9)

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	88%	12%	毎朝のミーティングで話し合っています。	送迎が重なってプレイルーム内の職員が少なくなる時間帯の体制を整えていきたい。
	2	職員の配置数は適切である	50%	50%	死角ができないように工夫している。	個別対応児童も踏まえた配置になるよう日々調整している。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	88%	12%	視覚支援に力を入れている。	文字がまだ読めない児童様に対してイラストでの認識を図るなど、見てわかりやすいスケジュールを立てるようにしている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	88%	12%	清潔を保つよう職員一人一人が心がけている。	様々な状況にすぐに対応できるように職員一人一人の意識を高めていきたい。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	88%	12%	毎月の全体会議において目標を定め、一か月後に振り返り話し合うようにしている。	全員が同じ共通認識を持って業務にあたるように努めている。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%		意見を取り入れ、できる限り改善につながるよう心がけている。	4月の新年度にむけて業務改善ができる環境づくりをしていきたい。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	88%	12%	毎年アンケートを集計し、ホームページにて公開している。	今後も結果を踏まえ、アンケートでいただいた意見を反映し業務にあたりたい。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	100%		職員全員で担当分けを行い業務に取り組んでいる。	今はまだ行われていないが、行われた際には対応できるように業務にあたっている。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%		年間の研修計画を立てている。	会社全体での研修もあり、職員個々で研修にも参加している。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	100%			アセスメントを行い、個別支援計画を作成している。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%			できるなら年齢別等でツールを変えていければと思う。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	100%			ガイドラインに沿って支援計画が作成されている。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100%		担当者会議を行い、職員でその都度話合っている。	計画に沿って支援を行っている。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%		出勤した職員で話し合っている。	毎朝のミーティングで療育を担当する職員や内容を決めている。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	88%	12%	前日(前回)に行った療育を共有し、関連性を失わないよう気を付けている。	内容が固定してしまう可能性もあるので、その点を留意してプログラムを決めていきたい。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	100%		個別活動、集団活動をうまく組み合わせている。	作成した個別支援計画をもとに、スモールステップでレベルを上げていけるよう細かな支援内容を考えていきたい。
17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	88%	12%		平日に関しては問題ないが、土日に関しては前日に打ち合わせをするなど工夫する必要がある。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	75%	25%	終業時に共有している。	共有したことを職員一人一人が忘れずアップデートしていくよう指導していく。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	63%	37%		申し送り用紙に記録をつけているが、もう少し深く検証できるようにしていきたい。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	100%			その児童に対し職員間で認識が違ふということがないように定期的すり合わせをしていく。
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%		人員の関係で同席が難しい事が多いが、事前にその児童に精通した職員への聞き込みを行っている。	今後は同席できる形を取りたい。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	75%	25%		今後もっと密に連携を図っていきたい。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	50%	50%		該当児童なし
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	50%	50%		該当児童なし
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%			そのような状況がないが、いつでもできる体制を整えている。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%			そのような状況がないが、いつでもできる体制を整えている。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	88%	12%		今のところ助言は受けていない。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		100%		他施設との交流は今のところない。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	12%	88%		参加したいができないことも多かった。今後機会があれば積極的に参加したい。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%			送迎時やLINEにてその日の様子を共有し、保護者様からも要望を聞くことがある。
保	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	25%	75%		今後積極的に行っていきたい。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%		契約時や質問があった際は丁寧に丁寧に対応させていただいている。	保護者様にとって不明確なことがないように今後も真摯に向き合い信頼関係を築いていきたい。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	100%			同意を得た上で支援を行っている。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	88%	12%		今後は保護者会等開き、保護者様からの意見を聞ける機会を作っていきたい。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
護者への説明責任等	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	25%	75%		父母の会の活動支援はできていない。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	100%			何かあればその都度迅速に対応するよう心掛けている。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%			毎月のイベント案内等保護者様に報告している。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	100%		SNSの投稿等は特に職員間で確認し、徹底している。	保護者様への確認を再度行ったので、今後も、細心の注意を払っていきたい。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%			個々に合うやり方で配慮を行っている。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	12%	88%		季節のイベント等で、地域住民の皆様と交流を図っていきたい。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	88%	12%		年に2回の防災訓練に加え、職員間での研修として不定期に行っている。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	88%	12%	土日のイベントで訓練を行っている。	職員のみ研修も今後増やし、防災に対する意識を高めていきたい。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	100%		モニタリング時で必ず確認をおこない、職員間で共有している。	日々の中で各児童様の情報管理をてっていききたい。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	88%	12%		医師の指示書が必要な児童は今のところない。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%		前日の事は翌日のミーティングで必ず共有している。	ヒヤリハットが起きないよう環境づくりと職員の意識を高めていく。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%		虐待防止委員会での研修が定期的に行われている。	職員一人一人の支援に対する積極性もみられるが適切な振る舞いや言動を徹底していく。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	88%	12%	契約時に身体拘束の同意書をいただき、了解を得ている。	やむを得ず身体拘束を行った場合、保護者への周知は丁寧に経緯を説明するようしていきたい。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。